

宮内庁書陵部所蔵・正倉院宝物図関係史料の画像公開について

画像史料解析センターで二〇二〇年度より開始した「正倉院宝物図プロジェクト」は、近世・近代に作成された各種の正倉院宝物図に注目し、事例収集を基礎として、それらの流布・伝播の体系的整理をめざして活動が続いています。二〇二〇年度には研究活動の一環として、宮内庁書陵部図書寮文庫に所蔵される正倉院宝物図関係史料のデジタル撮影を実施し、このたび史料編纂所HiCAT Plusよりデジタル画像を公開することができました。史料編纂所ホームページのデータベース選択画面 (<https://www.aphi.u-tokyo.ac.jp/ships/>) の「HiCAT Plus」を選択し、「正倉院宝物図」で検索してみてください。このたび撮影・公開したのは、二六・七九八コマです。数種類のもの、香木の拓本、東大寺開田図の模写など、多様な史料が含まれています。ぜひご活用ください。

(稲田奈津子)

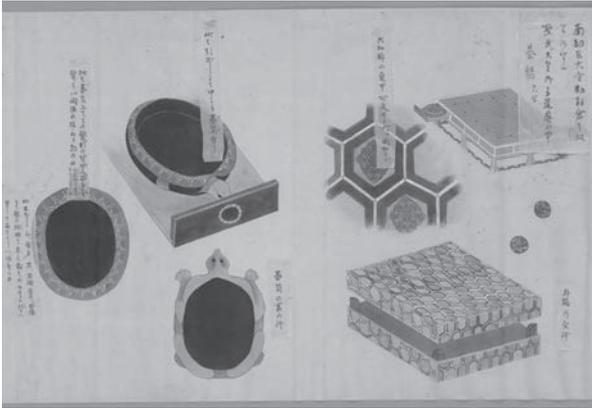


図1 正倉院御宝物図巻 (B6・713) より

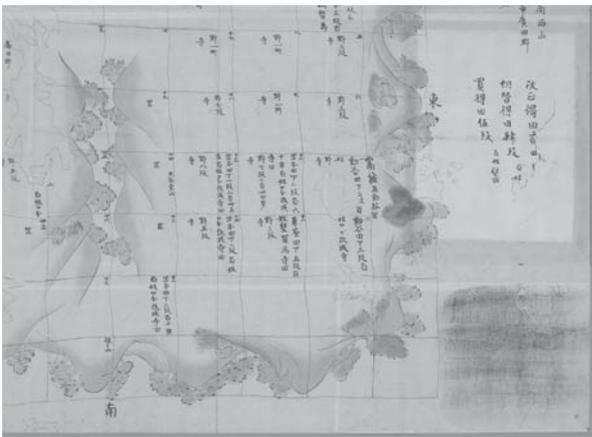


図2 〔越前国足羽郡糞置村〕東大寺墾田図(111・273)より

滋賀県立琵琶湖博物館との連携による琵琶湖博物館所蔵東寺文書の画像ウェブ公開について

二〇二一年二月八日、滋賀県立琵琶湖博物館が所蔵する東寺文書（一〇七通。重要文化財）の画像を、本所データベース「日本古文書ユニオンカタログ」および「HiCAT Plus」を通じて広くウェブ公開することになった。琵琶湖博物館所蔵東寺文書は、江戸時代に京都の東寺を離れた史料群であり、滋賀県内個人の所蔵を経て、一九九六年に滋賀県立琵琶湖博物館が所蔵することとなったものである。平安時代から江戸時代にいたる一〇七通の史料からなり、中世の東寺領経営にかかわる文書が多い。京都府立京都学・歴史館が所蔵する「東寺百合文書」（国宝）とかつては一体のものだったと考えられる。

二〇一九年に本所が日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」に採択されたことを契機に本所と琵琶湖博物館との連携が進み、二〇二一年三月に両機関で締結された覚書をもとに、今回画像のウェブ公開が実現した。「日本古文書ユニオンカタログ」には、目録情報や本文テキスト（聖教や帳簿など一部の史料にはなし）も搭載しているので、史料名や史料番号、史料本文中に登場するキーワードからの検索も可能となっている。画像の利用条件は、琵琶湖博物館に直接お問い合わせいただきたい。

(木下竜馬)

